



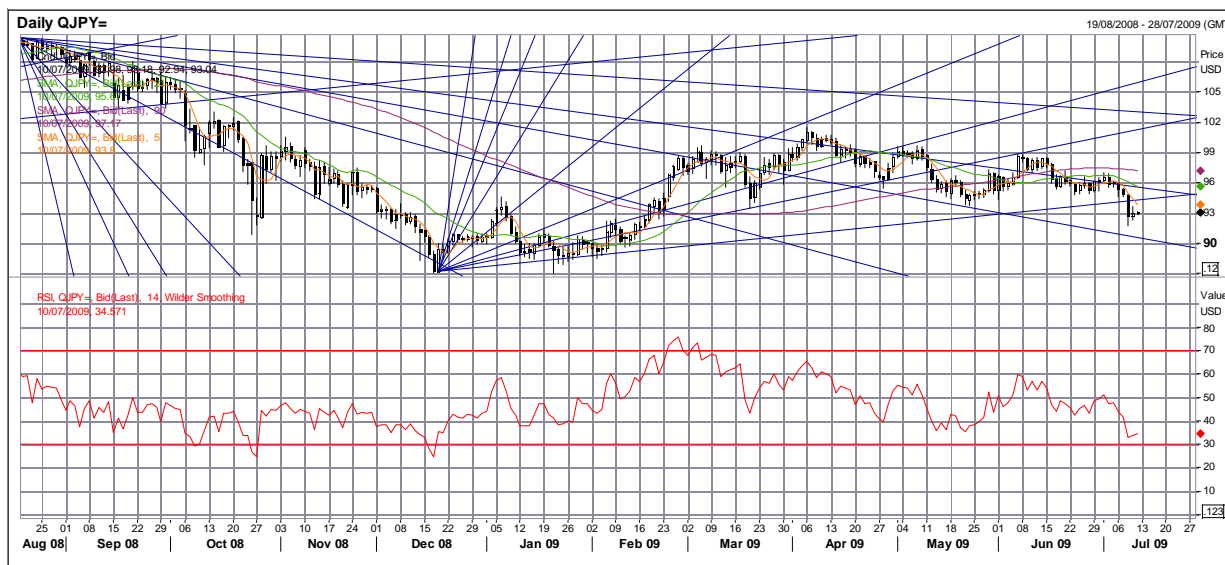
Topic's Report

by Fumio Mizutani

ギャンチャートを中心としたテクニカル分析 (ドル/円、ユーロ/ドル、ユーロ/円)

相場の変動しているときはチャート分析に頼るのが有効です。特に最近の動きはリスク志向のマネーが逆回転しており、損切り中心の相場と言えます。ポジション調整がどの程度進んでいるのか、そして値ごろ感が出ているのかを見極めるのは容易なことではありません。チャートはディーラーの心理を表しています。そして「歴史は繰り返す」という相場の格言があります。

1. ドル/円



チャートにはギャンチャートと RSI(Relative Strength Index)を併記しました。ギャンチャート分析では、左端 8 月 11 日高値 110.50(open)起点のギャンライン 1x4(現在 95.54)を今週火曜日に下抜けし、そして中央下部 12 月 18 日安値 87.22(open)起点の 1x8(現在 94.24)を水曜日も下抜けしました。次の下値は 8 月 11 日起点の 1x3(現在 90.56)が浮かび上がります。この水準までの下落リスクを見るかどうか判断が迷うところです。ギャンスクエアの非常に重要な節目は 91.00 です。これは相当に強固です。クロス円中心の損切り相場の流れになっているのは明らかです。損切りが一巡する時点が反転の時期かもしれません。それを判断する材料が RSI です。グラフ下部の RSI を見ると 33.42 となっています。赤いラインが 30 とこの水準はドルの売られ過ぎの水準です。過去のドル下落局面では過去 1 年間で 2 度割っています。そして反発しています。今回もこの水準に接近しており、これから反発するか、もしくはもう一度のドル下落局面で 30 割れを示現するかもしれません。総合するとギャンスクエアの 91.00 を重視しつつ、RSI の数字を見ながらドルの底値を拾うトレーディング姿勢でよいのではと思います。

Topic's Report

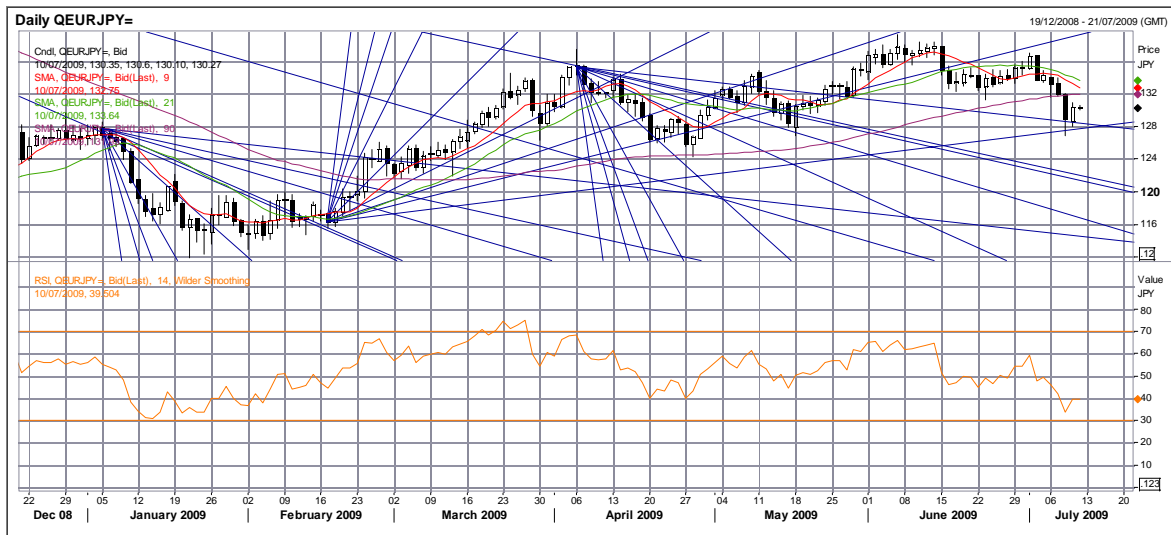
by Fumio Mizutani

2. ユーロ/ドル



左端に隠れている 10 月 27 日安値 1.2466(last) 起点のギャンライン 1x8(現在 1.3988)に沿った動きを継続しているように見えます。ギャンスクエアの重要な節目 1.3900 も一瞬割れましたが、直ぐに戻ったようです。もしも再度この 1x8 ラインを割れば、下値リスクは 3 月 6 日安値 1.2545(open) 起点の 1x4(現在 1.3771)となります。RSI は 51.7 とほとんど中立です。過去の数字を見るとユーロ下落の局面でも 40 前後までしか下がっていません。下落リスクの恐怖と戦いながら、ユーロの底値を拾うスタンスで良いのではないかと思います。ストップロスを置くことで恐怖感が緩和されるでしょう。ファンダメンタルズ的にはユーロ圏の景況感が米国ほど改善していなく、リスクは存在します。

3. ユーロ/円



典型的な損切り相場です。ユーロ下落の目安は 4 月 6 日高値 135.48(open) 起点のギャンライン 1x8(現在 128.35)と読みます。その水準を下抜けしたとしても、2 月 17 日安値 116.26(last) 起点の 1x8(現在 127.76)が次のサポート(支持線)となります。ギャンスクエアの非常に重要な節目は 127.00 です。RSI を見ると 38.22 とユーロ売られ過ぎの水準に近づいていると思います。過去の例を見ても今年 1 月に一度だけ 30 に近づいた局面以外はありません。損切り相場終了が近づいていると考えて良いようです。リスク志向のマナーが動き始めると反発は早いと予想します。

リスク管理には細心の注意を払いましょう。(ストップロスは必ず置きましょう。)

本資料は情報の提供を目的としており、投資その他の行動を勧誘する目的で、作成したものではありません。投資に関する最終的決定は、お客様ご自身の判断で行ってください。各種資料の情報は、ODL JAPAN 株式会社が著作権を保有しています。無断の複製、インターネット上のアップロード、転載、販売、改変その他著作権法の利用行為は重大な法律違反となります。著作権保有者は、本資料の内容に関する正確性、信頼性、安全性を保障いたしません。また、本資料の利用に起因するお客様の直接的または間接的損失および損害についても ODL JAPAN 株式会社及び情報提供元はこれに係わる一切の責任を負いかねますのでご了承ください。